

AllyWare™ v2.9 Release Notes

December 16, 2025

NetAllyのネットワークテストおよびアナライザは、当社の共通技術プラットフォームであるAllyWareを基盤として構築されています。本AllyWareリリースノートでは、このリリースに含まれる新機能および機能強化について簡潔に説明します。

注意: 特定の機能や強化は、指定された製品にのみ適用されます。

目次

バージョン2.9の新機能と機能強化	2
EZ Wired Test App	2
EZ Wi-Fi Test App	3
Wi-Fi 7アクセスポイント向けMLO構成の可視性	5
AirMapperアップデート - クイックサーベイモードを搭載	5
自動テストの機能強化 - 詳細な画面タイトルとVLANエラー	9
ホーム画面のアップデート	11
新しいUSB接続のWi-Fiアダプタに対応	11
Link-Liveアプリの機能強化 - 新しいアイコンと自動アップロード	12
拡張AP名の対応	16
組み込み版Nmapのバージョンを更新	17
EN 18031 RED 緩和策とネットワークセキュリティ	17
その他の機能強化	17
バージョン2.9のBug Fixesと改善	19
Known Issues	19
ソフトウェアのアップデート	20

バージョン2.9の新機能と機能強化

EZ Wired Test App

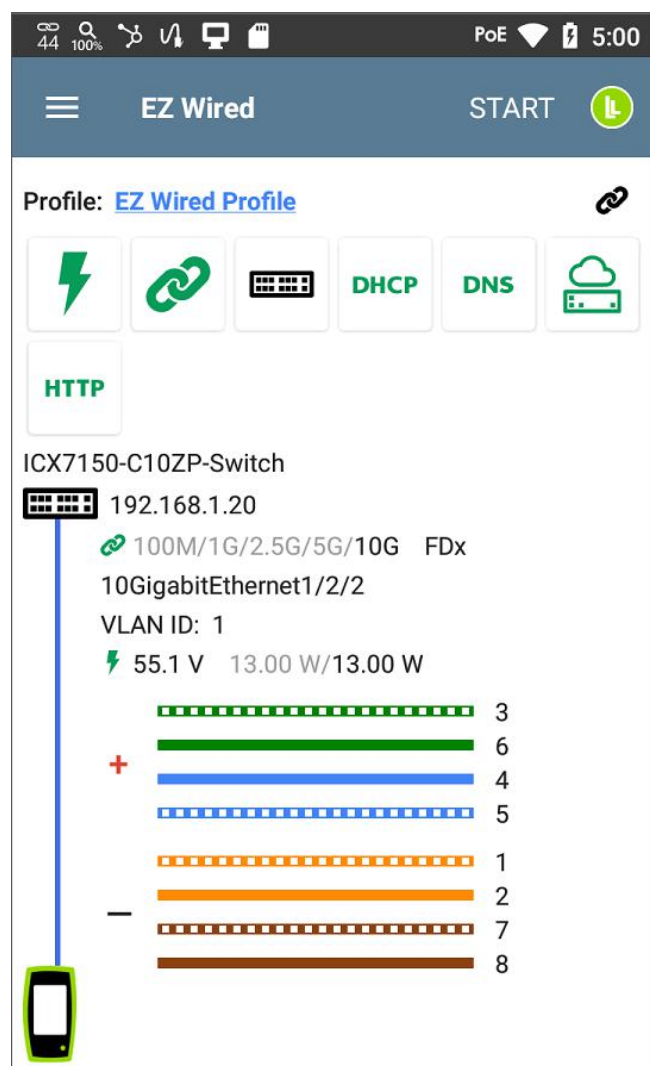
EtherScope nXG, CyberScope, CyberScope XRF, LinkRunner 10G, LinkRunner AT 3000/4000



有線接続テストの新インターフェーススイッチアプリがEZ Wiredになりました。

今回のリリースでは、有線接続テストのための簡素化・効率化されたインターフェースを提供する新しいEZ Wiredアプリケーションを導入します。EZ Wiredは自動テストおよび旧スイッチアプリと同様のコアインサイトを提供しますが、ネットワークに関する深い知識がなくても高速で信頼性の高い可視性を求める技術者向けに、最小限の設定で運用できるワークフローを実現しています。

EZ Wiredアプリで「開始」をタップすると、有線接続テストが開始されます。バックグラウンドでは自動テストが実行され、EZ Wiredインターフェースに結果データが簡略化された形式で表示されます。



EZ Wiredは、各テストステップの進捗状況を色分けされたステータスアイコンで表示します。**緑**は成功、**黄色**は警告状態、**赤**は失敗を示します。これまでスイッチアプリに表示されていたすべての情報が、EZ Wiredのメイン画面に表示されます。これには、速度、デュプレックス、ポートの詳細に加え、PoE情報（PoEテストが有効になっている場合）、またはSFP情報（利用可能な場合）が含まれます。

いずれかのステータスアイコンをタップすると、そのテストコンポーネントの詳細結果画面が開きます：PoE、リンク、近接スイッチ、DHCP、DNS、ゲートウェイ、テスト宛先。

EZ WiredはAutoTestアプリ内でカスタマイズ可能なEZ Wiredプロファイルを使用します。EZ Wired画面上部の青い下線付きの「EZ Wiredプロファイル」リンクをタップすると、EZ Wiredプロファイルのメイン結果画面が表示されます。プロファイルに追加されたテスト宛先は、EZ Wiredサマリービュー内に自動的にアイコンとして表示されるため、チームはユーザーエクスペリエンスをシンプルかつ一貫したまま、ワークフローをカスタマイズできます。

EZ Wi-Fi Test App

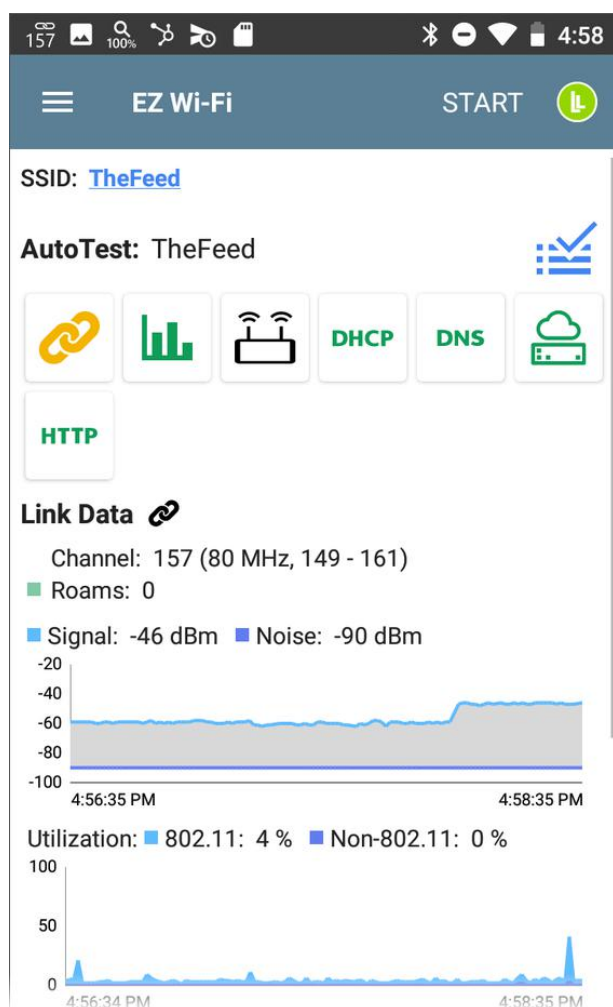
EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air



ワイヤレス接続テストの新しい簡素化されたインターフェース

この新アプリケーションは、ワイヤレス接続テストの簡素化されたインターフェースを導入します。EZ Wi-Fiは、自動テストのWi-Fiプロファイルと同様の重要な解析結果を提供しますが、高度なネットワーク知識がなくても迅速かつ信頼性の高いWi-Fi診断を必要とする技術者向けに設計された、最小限の設定ワークフローを備えています。

EZ Wi-Fiアプリで「開始」をタップすると、選択したSSIDへのワイヤレス接続テストが開始されます。バックグラウンドでは自動テストが実行され、EZ Wi-Fiインターフェースに結果データが簡略化された形式で表示されます。



EZ Wi-Fiは、各テストステップの進捗状況を色分けされたステータスアイコンで表示します。緑は成功、黄色は警告状態、赤は失敗を示します。アイコンの下には、信号強度、チャンネル情報、リトライ、TXレートなど、主要なWi-Fiテスト結果がまとめられています。また、スクロール可能なリンクデータグラフは、接続が維持されている限りリアルタイムで更新され続けます。

ステータスアイコンをタップすると、そのコンポーネントの詳細結果画面が開きます。これらの詳細ビューは、自動テストのWi-Fi プロファイル結果で表示される内容（リンク、チャンネル、AP、DHCP、DNS、ゲートウェイ、および設定可能なテスト宛先を含む）を反映しています。

EZ Wi-Fiは専用のEZ Wi-Fiプロファイルの設定を使用します。ユーザーは自動テストアプリ内でEZ Wi-Fiプロファイルの設定を調整し、カスタム名を入力できます。プロファイルに追加されたテスト宛先（HTTPなど）は自動的にEZ Wi-Fiサマリービューにアイコンとして表示され、チームはシンプルで直感的なユーザーエクスペリエンスを維持しながらWi-Fiテストをカスタマイズできます。

Wi-Fi 7アクセスポイント向けMLO構成の可視性

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air

Wi-Fiアプリは 802.11be のマルチリンクオペレーションパラメータを表示します。

Wi-Fi 7 APのBSSID詳細画面の「レートと性能」に、新たに「マルチリンクオペレーション」セクションが追加されました。APがビーコンフレームにMLO情報を含める場合、Wi-Fiアプリはこれらのパラメータをデコードして表示します。これにより、802.11be環境のマルチリンク構成と機能をより明確に把握できます。さらに、BSSID詳細画面にMLOのMACアドレスが表示されます。

Wi-Fi - BSSID

localAdm:0a5828-533652
BSSID

SSID: **loftin-qf**

AP: **localAdm:025828-533652**

BSSID: 0a5828-533652
MLO MAC: 0a5828-533652

802.11

Channel: **40 (80 MHz, 36 - 48)**

Types: be, ax, ac, n, a
Signal: -71 dBm
SNR: 17 dB
Tx Power: 22 dBm
Security Types: WPA3-P, WPA2-P
QBSS Station Count: 2
QBSS Channel Utilization: 4%
Amendments: k, v
Last Seen: 3:23:14 PM

↑ Rates and Capabilities

Rates and Capabilities

12-13 <= 80 MHz 4 4

Multi-Link Operation

Link ID	1
BSS Parameters Change Count	34
Maximum Number Of Simultaneous Links	1
SRS Support	false
TID-To-Link Mapping Negotiation Support	false
Frequency Separation For STR/AP MLD Type Indication	0
AAR Support	false
Link Reconfiguration Operation Support	false
Aligned TWT Support	false

Interworking

Access Network Type: Private (0)
Internet: false
ASRA: false
ESR: false
UESA: false
Venue Group: 0
Venue Type: 0
ANQP OI Count: 0

AirMapperアップデート – クイックサーベイモードを搭載

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air

新サーベイモード – Quick Sampling

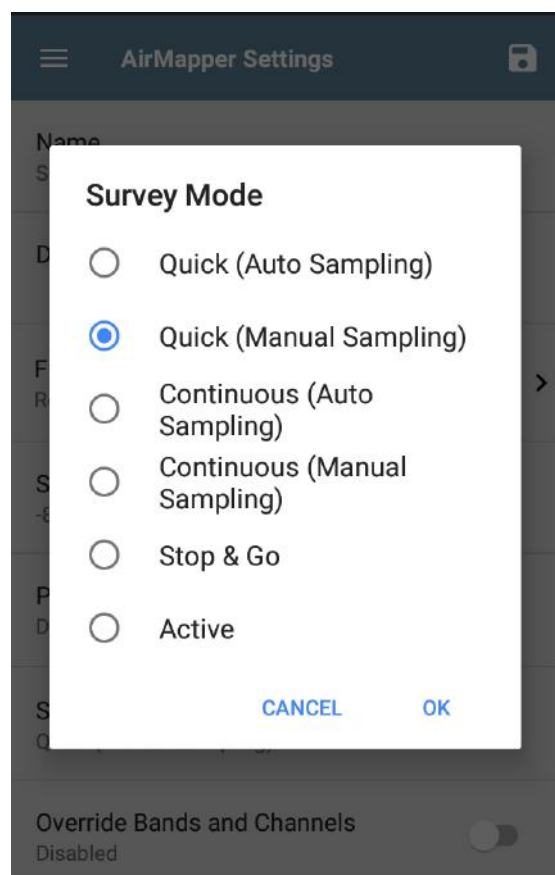
AirMapperは、完全なクライアントレベル解析が不要な場合に、迅速かつ高効率なWi-Fiサーベイを可能にするクイックサーベイモードを搭載しました。

クイックモードはWi-Fi無線の代替動作を活用し、スキャン時間を大幅に短縮します。連続サーベイや Stop-and-Goサーベイのように各チャンネルで少なくとも110ミリ秒留まるのではなく、無線はステーションモード(通常アクセスポイントとの接続に使用されるモード)に設定されます。

この設定では、AirMapperは無線に接続を試みることなく全チャンネルをスキャンするように指示するため、全98チャンネル(2.4/5/6GHz帯)の完全なスキャンを数秒で完了できます。

クイックモードは高速スキャン方式を採用しているため、アクセスポイントの情報のみが収集されます。クライアントデータは取得されません。

両方の新しいオプションは、AirMapper設定の「サーベイモード」に表示されます。



Quick (Auto Sampling) 移動しながら自動的にサンプルが記録されるため、カバレッジの迅速な評価に最適です。

Quick (Manual Sampling) 高速スキャンの速度状態で、サンプルを手動で実施します。

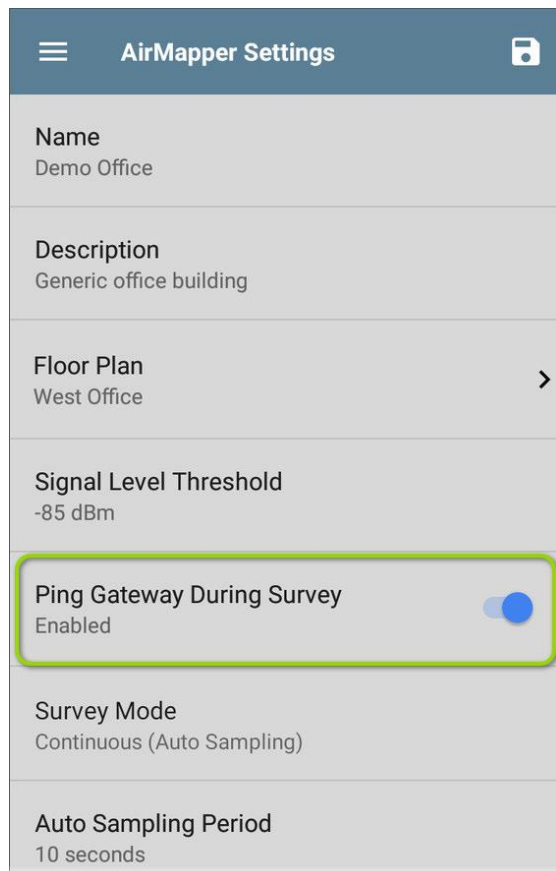
サーベイモード名の更新

AirMapperの動作をさらに明確化するため、既存のサーベイモードの名称を以下のように更新しました。
(英語設定)日本語設定の場合、変更はありません。

以前の名称	新しい名称	機能
Auto Sampling (Passive)	Continuous (Auto Sampling)	AirMapperは、手動で実施したポイント間を移動中に、設定された間隔で自動的にサンプルを記録し、経路に沿って測定値を取得します。
Current Scan (Passive)	Continuous (Manual Sampling)	AirMapperは、検出されたすべてのBSSIDからの最新のパッシブスキャンデータを使用して、選択した各ポイントで手動サンプリングを行います。
Scan Once (Passive)	Stop & Go	サンプルを実施すると、AirMapperは以前に測定したBSSIDをクリアし、新しいスキャンを 1 回実行して、その正確な場所でデータをキャプチャします。
Connected (Active)	Active	AirMapperは、Wi-Fiテストポートのアクティブな接続からサーベイデータを収集します。

AirMapperではゲートウェイにpingを送信して、より安定したPHYレートを実現

AirMapperの新しい設定により、データ収集中にテストがゲートウェイにpingを送信できるようになり、PHY TXレート測定の精度が向上します。この機能を有効にすると、Pingアプリはサーベイの開始と一時停止のアクションと同期して自動的に起動・停止します。この機能はデフォルトで有効になっています。



AirMapperで自動選択されるフロアプラン

Link-Liveから新しいフロアプランを受信し、AirMapperにインポートすると、上書きされるアクティブなサーベイデータが存在しない場合、そのフロアプランが現在選択されているフロアプランとなります。ユーザーは名前付き設定を再読み込みすることで、以前のフロアプランを復元できます。

サーベイデータが削除される前にポップアップ警告が表示される

新しい追加された警告により、新しいサーベイを開始すると既存のデータが削除されることがユーザーに通知されます。

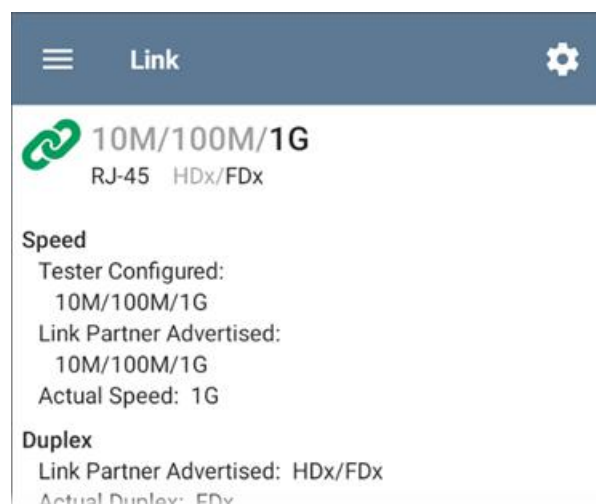
自動テストの機能強化 – 詳細な画面タイトルとVLANエラー

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air, CyberScope XRF, LinkRunner 10G, LinkRunner AT 3000, LinkRunner AT 4000

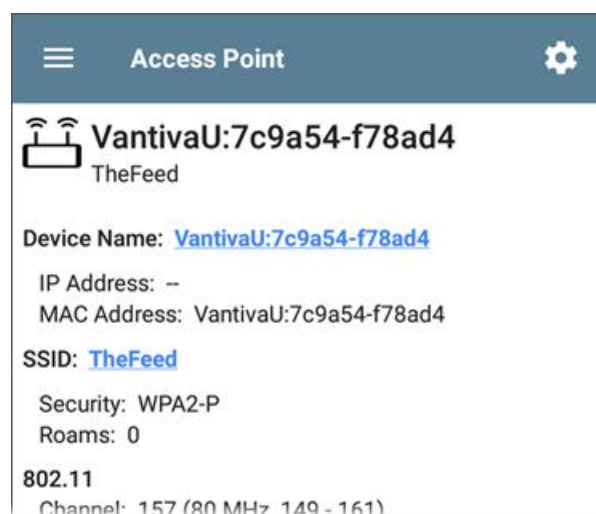
テスト結果詳細画面の画面タイトルの更新

自動テストの詳細画面に表示される新しいコンテンツ固有のタイトルは、現在表示されている画面を示します。

有線プロファイルの場合、新しい画面ヘッダーにはPoE、リンク、スイッチ、DHCP、DNS、Gateway、および設定されたテスト宛先が表示されるため、各画面に含まれる情報の種類を簡単に識別できます。

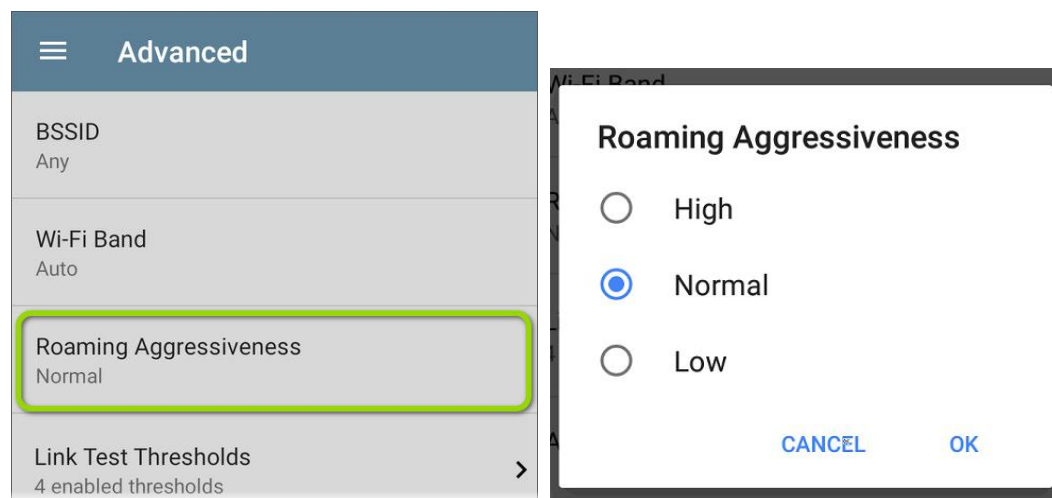


Wi-Fiプロファイルの場合、新しい画面ヘッダーにリンク、チャンネル、アクセスポイント、DHCP、DNS、Gateway、および設定されたテスト宛先が表示されます。



Wi-Fiプロファイルのローミングの積極性設定

自動テストのWi-Fi接続のローミング動作を明確化するため、従来のローミング・スレッショルド設定に代わり、新たな「ローミングの積極性」設定が導入されました。



新しいオプションは以下のように動作します：

- **High:** ローミングを積極的に行い、より強力なAPに素早く切り替えます。
- **Normal:** 安定性と応答性のバランスをとります。
- **Low:** ローミングを控え、信号が弱くなっても接続状態を長く維持します。

詳細なVLANエラーの説明

VLAN関連のエラーの詳細を提供するために、3つの新しい VLAN結果コードが追加されました：

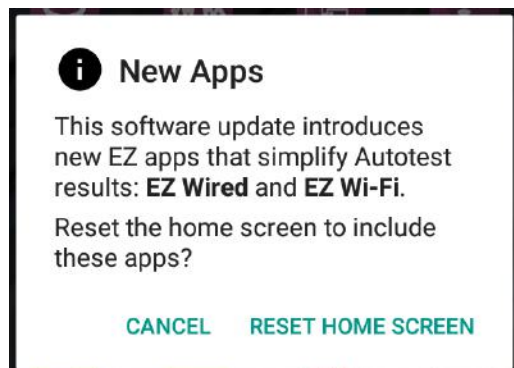
- VLANは有効ですが、パケットにVLANタグが付与されていません
- VLANは有効ですが、目的のVLANタグを含むパケットは検出されていません
- VLANは無効化されていますが、パケットにVLANタグが付与されています

ホーム画面のアップデート

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air, CyberScope XRF, LinkRunner 10G, LinkRunner AT 3000, LinkRunner AT 4000

新しいアプリ、アイコン、名称

すべてのテストには、新しいLink-LiveアイコンやEZテストアプリを含む、更新されたアプリアイコンが搭載されています。搭載アプリの詳細は機種によって異なります。バージョン2.9をインストール後、新しいアプリが表示されるよう、ホーム画面をデフォルトレイアウトにリセットするよう求められます。



新しいUSB接続のWi-Fiアダプタに対応

LinkRunner AT 3000 and 4000

TP-Link、MSI、Asus、DriverFree対応アダプタ追加しました

以下の新しく対応したサードパーティアダプタにより、上記のテストでWi-Fi管理ポート機能が有効になります:

- **TP-Link AX900TX10UB**
- **DriverFree AX900 2-in-1**
- **MSI AXE5400**
- **Asus AX1800**
- **TP-Link Archer TX20U Nano**

Link-Liveアプリの機能強化 – 新しいアイコンと自動アップロード

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air, CyberScope XRF, LinkRunner 10G, LinkRunner AT 3000, LinkRunner AT 4000

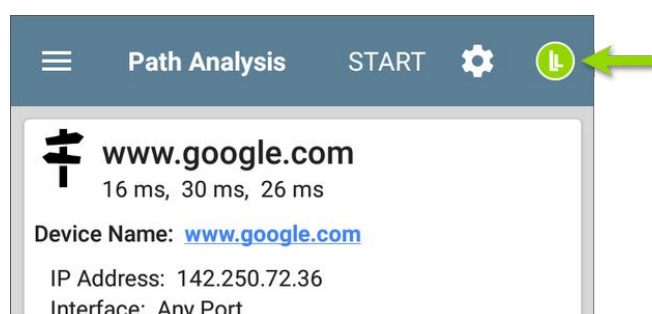
新しいLink-Liveアプリのアイコン



ホーム画面に追加された新しいアプリアイコンにより、Link-Liveアプリを簡単に見つけられ、リモートアクセスやアップロード設定の管理がさらに容易になりました。



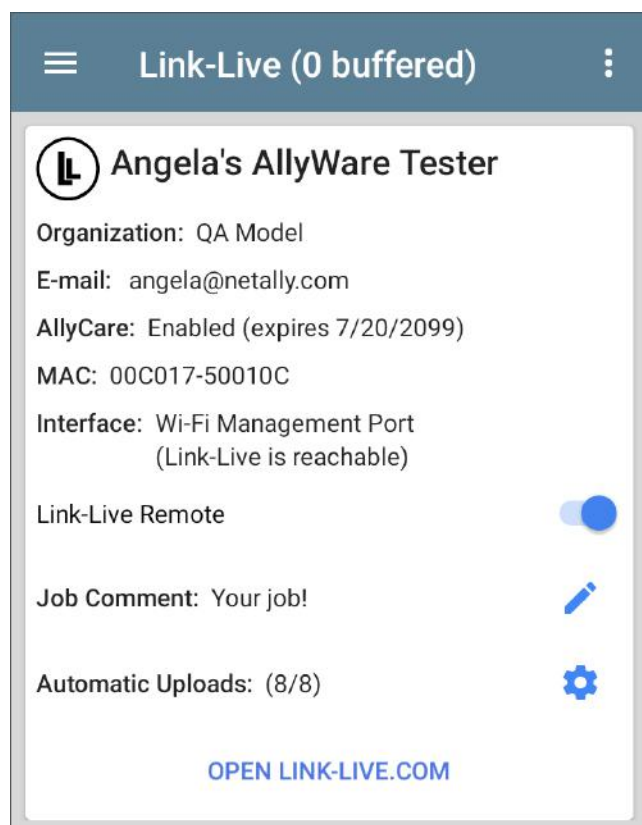
さらに、多くのテストアプリケーションの右上隅に、新しいアップロードステータスインジケータが表示されるようになりました。



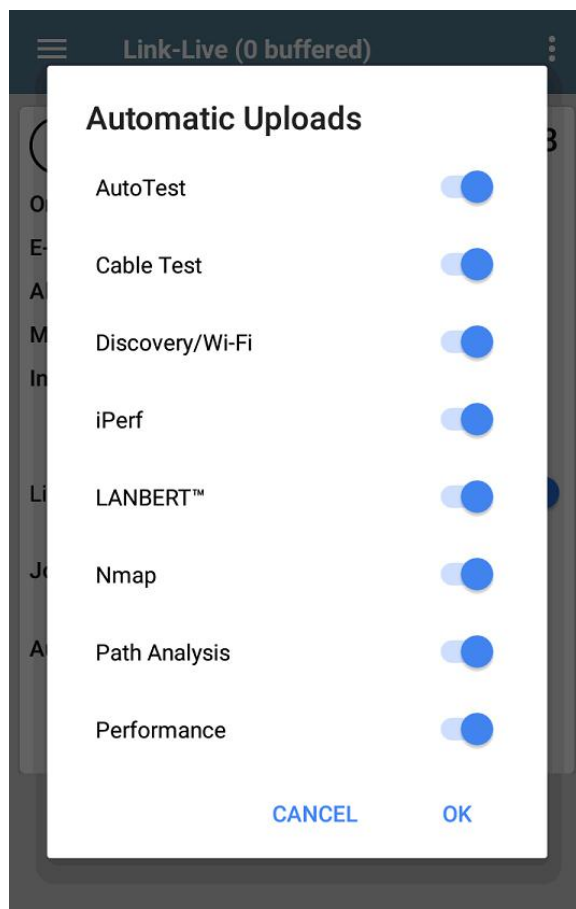
- 結果が正常にアップロードキューに追加されると、アイコンは緑色に変わります。
- テスタが Link-Live に登録されていない場合、アイコンは赤色に変わります。
- テストデータはアップロード可能ですが、そのアプリで自動アップロードが無効になっている場合、アイコンは白い枠線で表示されます。

統合されたLink-Live機能と自動アップロード

Link-Liveリモートの有効化、Jobコメントの編集、テストアプリからテスト結果の自動アップロードといった操作が、すべてLink-Liveアプリのメイン画面に表示されるようになりました。



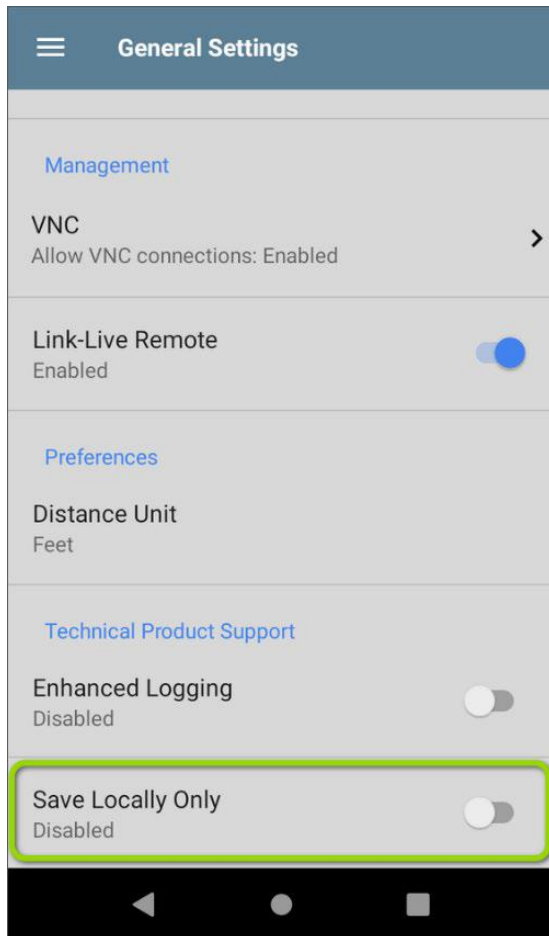
「自動アップロード」の右側にある設定アイコンをタッチして、選択ダイアログを開きます。



このダイアログには、テスト上の自動アップロード機能を持つすべてのアプリが表示されます。有効にすると、テストの実行後すぐにテスト結果が自動的にアップロードされます。

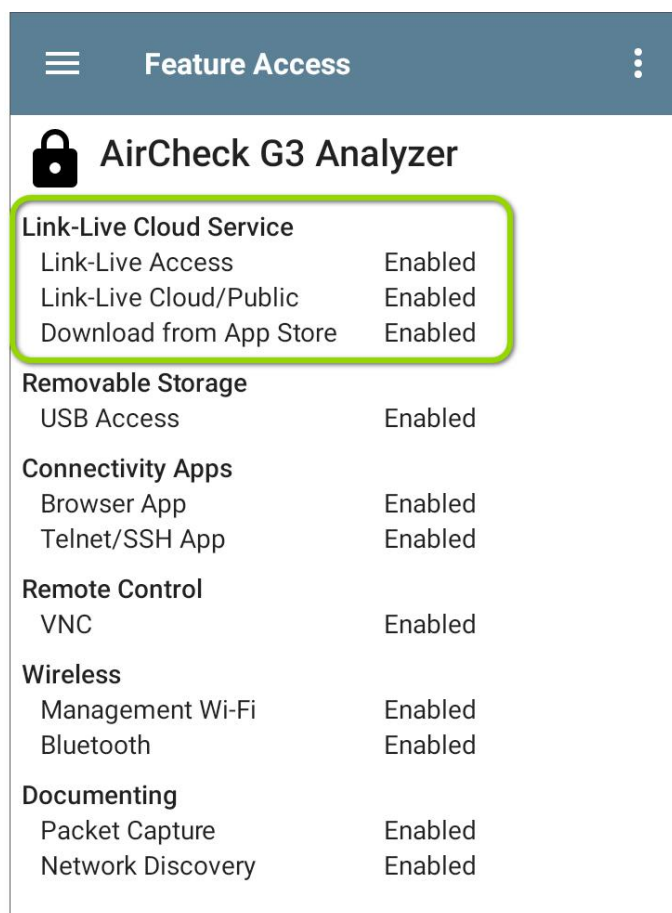
「ローカルのみに保存」設定が一般設定に移動しました

「ローカルのみに保存」設定は、NetAllyカスタマーサポートチームが技術サポートを提供するために詳細なログ情報を収集することを目的としています。この設定を有効にすると、保存したテスト結果を後でLink-Liveにアップロードすることはできません。そのため、「ローカルのみに保存」設定は「テクニカル製品サポート」の下にある「一般設定」内に移動されました。



Link-Liveクラウドサービスの設定が機能へのアクセスに移動しました

Link-Liveのプライベート設定が誤って有効化されるのを防ぐため、Link-Liveのセキュリティ設定は機能へのアクセス画面に移動されました。



拡張AP名の対応

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air

ビーコンにおける拡張されたCisco/Meraki AP名への対応

Wi-Fiアプリケーションは、ビーコンフレーム内で15文字を超えるAP名をアドバタイズするために使用されるCisco/Merakiベンダー固有の情報要素を認識するようになりました。このメカニズムはCCX (Cisco Compatible Extensions) を必要としません。この機能強化により、互換性のあるMerakiアクセスポイント (MerakiソフトウェアリリースR32以降) は、対応するNetAllyテストのスキャン結果にAP名を直接表示できるようになります。拡張AP名が利用可能な場合、通常はAP名が表示されるデバイス検出ビューに、拡張AP名が表示されます。

組み込み版Nmapのバージョンを更新

CyberScope, CyberScope Air, CyberScope XRF

New Nmap v7.98

組み込みNmapのバージョンがv7.98にアップデートされました。詳細は <https://nmap.org/changelog.html> をご参照ください。

EN 18031 RED 緩和策とネットワークセキュリティ

EtherScope nXG, AirCheck G3, CyberScope, CyberScope Air, CyberScope XRF,
LinkRunner 10G, LinkRunner AT 3000, LinkRunner AT 4000

新しいUI警告

無線デバイスに関する欧州規格要件の導入に伴い、テストおよびインターフェースへのリモートアクセス（VNCまたはLink-Live リモート）のパスワード設定を促す案内メッセージを追加しました。パスワードの設定は必須ではありません。

インバウンド接続のレート制限

テストへのリモートアクセス用インバウンド接続では、新規接続試行間に5秒間の遅延が必要となりました。この動作によりVNCへのブルートフォース攻撃を防止し、EU規制 EVS-EN 18031-1:2024 の要件を満たします。

その他の機能強化

LinkRunner 10G, LinkRunner AT 3000, LinkRunner AT 4000

LinkRunners用Wi-Fiアダプタの要件を明確化

Wi-Fi接続画面には、すべてのLinkRunnerモデルでワイヤレス接続を行うには別個のUSB Wi-Fiアダプタが必要であることを明確にする更新された説明文が追加されました。

全てのテスト

パス解析名の短縮

ホーム画面では、パス解析アプリの名前が単に「経路」に変更され、アプリケーションの名前がより見やすくなりました。

AllyCare有効期限のお知らせ

テストのAllyCareの有効期限が近づいている場合は、有効期限が近づいていることを知らせるポップアップメッセージが表示されます。

Link-Liveの要求と接続不可通知

Link-Liveアプリは、テストがLink-Live.comに接続できない場合に新しいメッセージを表示し、ユニットを迅速に要求する方法を案内します。

自動テストのより明確なDHCP接続ログメッセージ

メッセージの先頭に「DHCP」が付くようになりました。

無線テスト

自動テストHTTPエラーコード

自動テストHTTPテストのリターンコードの選択肢に、ステータスコード 412 (Precondition Failed) を追加しました。

バージョン2.9のBug Fixesと改善

- **AW-14689:** ユニットがロックされている状態で再起動すると、Link-Liveリモートが再接続できない問題を修正しました。
- **AW-14856:** LRAT-3000 – 自動テストプロファイルがLink-Liveに正常にアップロードされない問題を修正しました。
- **AW-14770:** LR-10G – システムのWi-Fi画面に「Wi-Fi無線が内蔵されていません」というメッセージが表示されていた問題を修正し、更新しました。


Known Issues

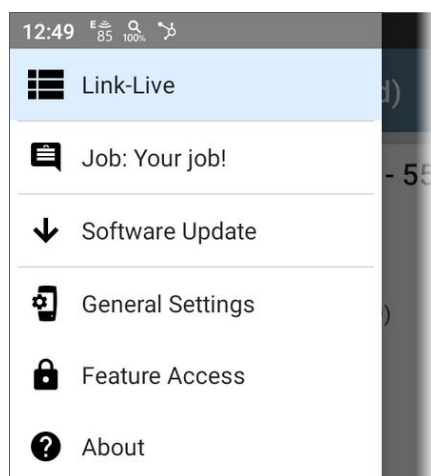
- **AW-14024:** TRENDnet AC1200 USB Wi-FiアダプタがLinkRunner 10Gで動作しません。

ソフトウェアのアップデート

このソフトウェアアップデートは、AllyCareサポート契約の重要な特典です。

Link-Live.comにユニットを登録している場合、Over the Air (OTA) ファームウェア更新手順に従うことを強くお勧めします。

1. ホーム画面からLink-Liveアプリ  を開き、利用可能なソフトウェア・アップデートを確認できます。
2. Link-Liveアプリで、メニューアイコンをタップするか、右にスワイプして左側のナビゲーションドロワーを開きます。



3. 「ソフトウェア・アップデート (Software Update)」をタップします。ソフトウェア・アップデート画面が開き、利用可能なアップデートのバージョン番号が表示されます。
4. 「ダウンロード + インストール (Download + Install)」をタップしてシステムを更新します。

テストのアップデートが完了すると再起動します。

NetAlly製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。